

解説●

性的指向、性自認

性的多様性とLGBT／SOGIのキホン



NPO法人共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク代表理事／LGBT法連合会共同代表

原 ミナ汰

言葉の認知度が高まったLGBTという言葉に加え、多数派である「性別違和のない異性愛」も含め、性的指向、性自認全般を包含するSOGIという概念も使われ始めた。多様な性のあり方が認められつつあるなか、セクシュアル・マイノリティの人びとが直面している困難や課題とは何か。

はじめにLGBTとはどんな人たちで、どれくらいいるか

数年前、三つの民間機関が別々に実施したウェブ調査で、全国に七〇％はいるとされたセクシュアル・マイノリティ。LGBTという総称で呼ばれることが多く、Lレズビアン（女性に惹かれる女性）、Gレズビアン（男性に惹かれる男性）、Bレズビアン（男女どちらにも惹かれる人）、Tトランスジェンダー（出生時の性別の枠組を越えて生きる人）を指す。人口の七〇％といえば、江戸時代における武家人口や、左利きの人、AB型の割合とさほど変わりなく、想像以上に身近なはずだが、その存在は長らく「いかがわしいもの」として強い社

会的拒絶に遭い、「公的には存在しないもの」として基礎調査さえされてこなかった。そのため、いまだ「身近にはいない」と思われることが多い。今でこそ、LGBTという頭文字に限定されない、より広範な性的マイノリティの存在も知られるようになり、多様な性のあり方が認められつつあるが、LGBTがいくつかの特徴を共有する「社会集団」として認知されるようになったのは、ごく最近のことである。ここでは「LGBT」を理解する上で知っておかねばならないポイントをいくつかあげる。

(1) LGBTは、対抗的なアイデンティティ

るようになった。その後、経済的にも政治的にもパワーのあるゲイ男性の陰で、存在が視えづらかったLレズビアン女性や、相手の性別にこだわらないBレズビアン女性の人びとを可視化する目的でLGBTとなり、性自認と性的指向の両方で最も差別的標的にされやすかったTトランスジェンダーが後に加わって、LGBTとなった。

(2) LGBTは、あくまで自己申告で決まる

では、性的指向とは誰が、何をもとに決めるのだろうか。実は、他者の性的指向を客観的に見極めるのは極めて難しい。異性愛であることは法律婚で証明できると考えがちだが、日本では生涯未婚率が二〇％以下で推移した「国民皆婚時代」があり、一九六五年までは成人人口の九八％以上が法律婚経験者だった。二〇一〇年の生涯未婚率は男女平均で一五％程度上昇したが、その間に異性愛者が急に減少したとは思えない。同性間の性的接触に刑罰を科している国でも、ゲイバーや私的なパーティーに踏み込むなどの状況に依拠しており、その参加者を検挙して晒すことでみせしめとしている。他にもたとえば、女性同士で交際しているも、双方が同性愛である場合もあれば、一方が異性愛であることもあり、双方ともにバイセクシュアルである場合や、どちらも異性愛、ということもある。結局は、他のすべてのアイデンティティ同様、性的アイデンティティは、確信的

「人は誰も、生まれてから死ぬまで、自ずと男女のどちらか一方に帰属するものだ」という「シスジェンダー規範」そして「誰でもいずれば異性に惹かれ、異性と結婚して暮らすものだ」という「異性婚規範」。この二つを当然で自明のこと（社会規範）とする考え方は、「性別三元制」にもとづく「異性婚規範」（シス・ヘテロノーマティビティ）と呼ばれている。今の日本の社会制度も、まさにこうした社会規範に基づいて設計され、それ以外の存在を想定外としてきた。

一方で、出生時に付与された法的性別に符合した性自認や（法律上の）異性に惹かれるという性的指向を全くもたない人も相当数いる。黙っていえば「異性愛」だと勘違いされて同調を求められるし、違うといえは強い拒絶に遭ったり、不当な取り扱いを受けたりする。そんな状況下で「ゲイである」と取って名乗って生きる人びとが現われ、ゲイ・コミュニティが形成され

はら・みなた

二〇〇八年に立ち上げた「共生ネット」で、LGBTQの人びとやその家族への相談・支援を本格化。「よりよいホットライン」セクマイ回線統括コーディネーターを務め、自治体職員、教育、援助職者向けに、全国五〇〇カ所以上で「性的多様性」研修を実施。渋谷区、世田谷区、文京区をはじめ多くの自治体のLGBTQ相談・居場所・啓発事業に協力している。LGBT関連の編著書「原美奈子」の名で共訳したリアン・フェダーマン「レズビアン」の歴史「筑摩書房、一九九八年）、LGBT関連書籍七二冊を取りあげたブックガイド「にじ色の本棚」英訳「Transforming Japan: How Feminism and Diversity are Making a Difference (The Feminist Press, Fujimura-Fanselow 編、2010) 若者向け「多様な性のありかたを知ろう」わたしたちのLGBTQ 1〜4巻」（大月書店、二〇一七年）の翻訳監修（LGBT法連合会）など多数。